

岐阜県内初 「最新型大型路線バス」を導入

濃飛乗合自動車株式会社（本社：岐阜県高山市、代表取締役社長：齋藤 尚正（さいとう たかまさ））は、7月18日に三菱ふそう最新型大型バス「エアロエース」を導入いたします。

今般、導入する「エアロエース」は、約10年ぶりのフルモデルチェンジとなり、衝突被害軽減ブレーキAMBを進化させた「AMA3（アクティブ・ブレーキ・アシスト3）」の採用や、運転注意力モニター「アクティブ・アテンション・アシスト」、渋滞時の疲労軽減にもつながる車間距離保持機能付オートクルーズに自動停止・自動発進機能を追加した「プロキシミティー・コントロール・アシスト」をバスで初めて採用するなど、安全面を大幅に進化させた車両となっています。また、床下トランクルームスペースの拡大により、手荷物の多い訪日外国人にとってもより利便性を高めることができるようになります。**岐阜県内では初めての導入。**

記

導入車両	三菱ふそう「エアロエース」	2台	正座席49席＋補助席11席
導入日	平成29年7月18日（火）		
使用開始日	平成29年7月下旬		
使用路線	新穂高線など観光路線に使用		

【新に搭載された機能】

● 新型8速AMT（セミオートマチックトランスミッション）「シフトパイロット」

AMTならではのスムーズで快適な操作性を実現し、安全運転にも貢献する「ShiftPilot」。燃費、操作性の双方を加味して、最適なギア段を自動で選択します。

● 全客席3点式シートベルト

安全性をいっそう高めるため、すべての客席に、拘束機能の高い3点式シートベルトを採用しました。

● プロキシミティー・コントロール・アシスト

車間距離保持機能付オートクルーズに「自動停止・発進機能」をプラス。とくに高速道路における渋滞時等に有効で、一時停止と発進を自動的にを行い、前方車を追従します。ドライバーの疲労を軽減し、追突事故の抑制にも貢献します。

● アクティブ・アテンション・アシスト

白線認識カメラや各種センサーの情報から、運転注意力の低下が判断された場合、警報を発生するMDAS-Ⅲ（運転注意力モニター）。この機能にドライバーモニターカメラ（顔認識カメラ）を新に搭載し、安全性を進化。顔認識カメラは顔の動きを捉え、運転注意力を監視。左右のわき見や眼の開閉状況を検知して、注意力低下を、**運転者座席を振動させ警告**します。

【強化された機能】

- リターダーの強化(流体式リターダー)

安定した力強いブレーキトルクを発生する新型流体式リターダーを装備。フットブレーキの使用頻度が少なくなり、ドライバーの疲労を軽減。ブレーキライニングの寿命も向上。

- 被害軽減ブレーキの強化（A B A 3（アクティブ・ブレーキ・アシスト3））

前方に走行車両または静止車両があり、高精度ミリ波レーダーにより衝突の危険を察知すると、警告や自動ブレーキによって衝突被害を軽減、または回避。

- 室内床をフラット化

車内移動の際のバリアフリー化を実現するとともに、各座席へのアクセスも向上。さらに、床下トランクルームの拡大にも寄与。

など